

第1回リニア駅周辺整備基本構想検討会議の概要について

1 開催日

平成26年5月30日(金)

2 出された意見の概要

(1)基本的な方向性の考え方

- リニアの特性(※)を十分に理解し、地域づくりや人々の暮らしについて考える。
(※)高速性はもちろんのこと、例えば、それによって人の流れや都市構造も大きく変化するといった視点。
- 飯田だけでなく長野県や伊那谷、南信州全体を考慮するとともに、県外からの視点といったものを踏まえて検討を行う。
- 地域らしさを考えるに当たっては、都市圏や他県駅との差別化を図っていくことが大切。
- リニアによる来訪者だけでなく、地元の人たちも利用できるような駅周辺にする。
- 周辺地域との調和や地域コミュニティへの対応が重要となる。
- リニア駅周辺の整備は、議論の経過を踏まえ適正な規模で検討する。

(2)リニア駅周辺整備に当たっての考え方(交通空間)

- リニア駅を「高度なトランジットハブ」として機能させるために必要な整備を考える。
⇒高速道路や周辺道路整備、JR飯田線とリニア駅との結節による利便性の向上などにより、円滑なリニアへの乗換を実現する。
- リニア駅へのアクセスが非常に重要となる。
- 駐車場の規模について検討する。なお、駐車場の多層化についても考慮すること。

(3)リニア駅周辺整備に当たっての考え方(環境空間)

- 高架下空間の活用について十分に検討をする。
- 自然を活かした環境整備や施策展開の視点を持つ。
- 現在ある観光資源を棚卸しするとともに、施設整備を含めた新たな観光資源の創出を検討するなど、将来に向けての観光のあり方を考える。
- 利用者の利便性を考慮して機能の検討を行うが、機能性だけではなく、景観といった要素も大切だという視点を持って周辺整備を考える。
- 賑わい施設のあり方について検討する。
- 情報発信の視点を踏まえる。